

15年のあゆみ



神奈川県金属プレス工業協同組合



組合創立15周年記念誌

目 次

理事長挨拶	1
祝 辞	2
組合の概要	8
年 表	9
団地建設までの思い出	12
目でみる団地建設のあゆみ	14
共同事業施設	16
組合員の売上高推移	17
主要共同事業実績推移	18
ceremony・event・etc	19
工場団地とわが社	22
工場団地配置図・案内図	24
組合員の紹介	27
協力企業の案内	38
事務局の紹介	39

(表紙のことば)

相模原在住の五十畑画伯の画いた三ノ宮から大山をのぞむ風景画を伊勢原工業団地組合から拝借した。

季節にマッチした色彩りで晩秋の田園風景と大山の遠景に静寂感が漂う。



組合創立15周年を迎えて

理事長

小林 豊 吉

創立十五周年を迎えるに当り、創立以来御指導と御援助をたまわりました神奈川県商工部、中小企業事業団、商工中金及び各関係機関に対しまして厚く御礼申し上げる次第です。

神奈川県金属プレス工業会が近代化促進法に基き集団化を計画し、高度化の団地として協同組合を結成する迄のいろいろな苦勞と、いよいよ工場建設に当る段階になった時オイルショックにぶつかり資材不足と大幅な値上りに直面し、あまつさえ大きな不況に見舞われましたが、我々組合員は設立以来強い団結と相互扶助、協業の精神に基き幾多の困難を克服して今日に至りました。

各組合員は開発・技術・合理化に努力し目覚しい発展を遂げられ、関係官庁より多くの表彰を受けられましたことは、協同組合としても誇りであり、また優良組合として過去において神奈川県知事、中小企業事業団理事長より表彰を受けられたことは、組合員のたゆまぬ努力と団結の成果であると思われます。

今後も一層この精神をくずすことなく努めていく所存でございますので、皆様の旧にもまして御指導と御支援をたまわります様重ねてお願い申し上げ、御挨拶のことばと致します。

昭和61年10月



神奈川県知事

長 洲 一 二

神奈川県金属プレス工業協同組合が創立十五周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

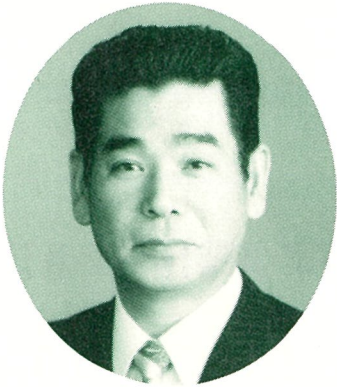
皆様の協同組合は、内陸伊勢原工業団地の中にあり本県で二番目の中小企業高度化事業によってつくられ、今日まで一致協力して経営の合理化・効率化に努められるとともに、工場環境の整備などを含め、地域社会との連携・調和にも積極的に取り組んでいらっしゃいます。

この十五年、石油危機に代表されるような厳しい経済環境の中で、地域経済を担う産業の中核団体として、その基盤をしっかりと確立し、めざましい発展を遂げられましたことは、誠に喜ばしい限りです。皆さんは、この度そうした功績が認められて、中小企業事業団から優良組合として表彰をお受けになりました。心からお喜びを申し上げますとともに役員の皆様のご努力に深く敬意を表します。これからも、神奈川らしい地域経済の確立に、その中核として大きな役割を果たしていただきますよう期待しております。

21世紀を間近に控え、いま産業界には「国際化」、「情報化」、「技術革新」、「高齢化」など新たな時代の大きな波が押し寄せてきています。このような中で、本県は、国際性、先進性といった神奈川らしさを生かし、「活力ある地域経済」と「魅力ある都市環境」とを兼ね備えた「かながわのくにづくり」を実現していきたいと考えております。

そこで、21世紀の神奈川を日本や世界の技術開発のメッカにしようという頭脳センター構想をはじめ、さまざまな施策を推進しております。もとよりこうした施策も皆様のように優れた技術をお持ちで、創造性と機動性に富んだ企業経営を行っていらっしゃる方々のご活躍とお力添えがあってはじめて実現できるものです。どうか、これからも地域に根ざした活動を通して21世紀への神奈川づくりにご協力いただきますようお願い申し上げます。

創立十五周年をひとつの節目として神奈川県金属プレス工業協同組合の、ますますのご発展と会員の皆様のご繁栄を心からお祈りいたします。



伊勢原市長

永井 高夫

神奈川県金属プレス工業協同組合が創立十五周年を迎えられ「組合十五周年記念誌」を上梓されますことに心からのお喜びを申し上げます。

顧みますと当組合は昭和四十六年六月加盟組合員二十二社の総意のもとに、工場集団化事業として計画当初から五年の歳月を経て伊勢原工業団地内へ進出され、伊勢原市の市制施行と期を同じくして組合設立されております。設立以後今日まで、当組合は組織の充実と堅実な運営により本市の工業伸展に一翼を担っていただきましたことに敬意と感謝を表しておる次第です。

さて、我が国の経済情勢は、高度成長期から新しい安定軌道への転換期にあたり、申すまでもなくその環境は内外ともに厳しい状況下にあります。特に、昨年九月来の円高、為替レートの急激な変動は、当組合員各企業の皆様に対しましても、多大な影響を与え、厳しい企業経営を余儀なくされておることと存じますが、こうした厳しい現況の中で、今日ほど経営面でトップマネージメントのリーダーシップが問われる時代はないかと存じます。常に未来を見つめ、新しいものを生み出そうとする創造性と企業イノベーションを結集されまして、今日の多様化する難局を克服されますことを願いたすものであります。

さて、当組合十五年の堅実な歩みの中で、加盟企業の皆様の中には、プレス部門で優秀商品として内閣総理大臣賞又、精密金型システム化により県工業技術大賞を受賞された企業もおられますし、一方、先進的ロボットシステムの導入等で独自の経営をされている企業もあり、技術的にも経営面でも現在トップレベルにあられる中小企業集団ではないかと認識いたしております。現在のこうした厳しい経済情勢下の中で、当組合の役割も今後使命と責任の面ですます大なるものがあります。

記念すべき十五周年を契機にこれまで培ってこられた基盤を一層より強固なものとなされ、連帯と協調を持って邁進されますことを心から祈念申し上げますとともに、貴組合、並びに組合員皆様の限りない御発展を願いたしご挨拶といたします。



中小企業事業団 理事長
森 口 八 郎

神奈川県金属プレス工業協同組合が、組合設立十五周年を迎えられるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

顧みますと、貴組合は昭和四十六年六月に設立され、傘下組合員の企業体質の改善、公害問題の解消、事業の共同化や協業化による下請性からの脱皮等を目標に、昭和四十七年度から工場等集団化事業に着手され、以後、組合員皆様の多大な努力の結果、昭和五十年度に組合員二十一名を擁する近代的な団地を完成されました。

団地完成後も組合員の固い団結と相互扶助の精神の下に、昭和五十四年度には補完事業を実施されるなど、一層の団地機能の拡充に努められた結果、現在の組合員二十名による団地の集積効果も発揮され、今日では神奈川県における金属プレス業界の中核として、確固たる地位を築くに至りました。

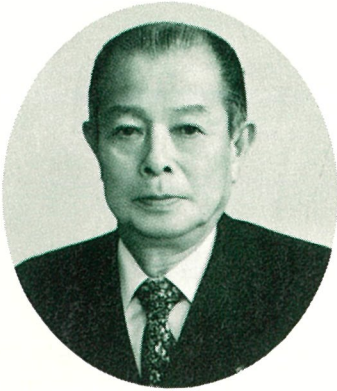
今般めでたく設立十五周年を迎えられましたことは、ひとえに組合並びに組合員の皆様の御努力の賜であり、関係者の一人として誠に御同慶の至りであります。

御存知のように、昨今の中小企業を取り巻く環境は、円高、市場開放、内需拡大、新興工業国との競争激化等、「新たな国際化時代」という厳しい状況にあります。

これらの諸問題を乗り越えて発展するためには、中小企業が持ち前の活力と過去の経験を活かしつつ、共同化の促進、事業の多角化、新製品の開発、異業種企業との交流、情報化、技術革新等に対し、従来に増して意欲的に取り組むことが肝要かと存じます。

当事業団といたしましても、中小企業の果たす役割の重要性に鑑み、集団化事業制度をはじめとする一連の高度化事業の拡充強化に努めて参る所存ではありますが、組合員の皆様におかれましても初心を忘れることなく、更に固い団結と相互扶助の精神の下に御努力を重ねられ、名実ともに他の団地の模範となられるよう期待する次第であります。

終わりに、貴組合並びに組合員の皆様の一層の御発展を祈念いたしまして祝辞といたします。



神奈川県中小企業団体中央会会長
森 辰 衛

神奈川県金属プレス工業協同組合がめでたく十五周年を迎えられましたことを心からお祝い申しあげます。

市街地における公害防止対策、企業合理化の為、川崎・横浜から進展地を求めて、伊勢原の工業団地への進出が計画され、現在においては着実な歩みをみせる貴組合であります。ドルショック、オイルショックと相次ぐ経済ショックの最中に団地建設が進められ、移転後は、経済不況の中での会社経営を余儀なくされる等、ご苦勞は並々ならぬものであり、今日十五年を経た感慨は、一入のものと存じます。

資金返済事務のみに流れがちな団地組合にあって、当初より、業種的なつながり、立地環境等団地組合としての効果による、相互提携、業務、技術の相互補完、共同化、協業化等を目標とし、役員・組合員が一丸となり、一つ一つ実現を図りながら、団地組合としての組織力を強化された手法は、大く学ぶところであります。高度化補完事業を初めとする各種経済事業の積極的展開は、とくにめざましいものがあります。

現在に至っても、公害防止、技術革新等企业負担は益々増大傾向にあり、一方では近時の円高傾向等経済環境も予断をゆるさない状態であります。貴組合においても、当初高度化資金の返済完了に伴う、組合の一体性の確保をどう進めるか等内外にわたる問題が山積し、改めて集団化意識が試される時期であろうかと存じます。

この十五年を一つの区切りとされ、これまで築かれた共同の精神と積極的な事業取組みにより、益々の団結を強められ、一層の発展に努められますよう、祈念いたしまして、お祝いのあいさつとさせていただきます。



商工中金 理事長

佐々木 敏

このたび、神奈川県金属プレス工業協同組合が、記念すべき創立十五周年を迎えられるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

貴組合は、神奈川県下のプレス加工業者が、公害問題の解消、経営の近代化等を目的とする集団化を推進するため昭和四十六年六月に設立され、昭和五十一年三月には念願の組合員全社の団地内での操業が開始されたのであります。

設立以来十五年、オイルショックをはじめとする経済金融情勢の激変等、幾多の難局を見事に克服し、優良団地組合として組合員の方々共々大きく成長され、地域経済社会に多大の貢献をされてこられました。これもひとえに、小林理事長を始め、組合役員の方々の卓越したリーダーシップと組合員の皆様方のたゆまぬご努力の賜と心から深く敬意を表する次第であります。

さて、最近のわが国経済は、国際収支の不均衡問題等を背景として、昨年来急激な円高傾向が続いており、各業界とも不況色が強まり、とりわけ中小企業を取り巻く環境は、極めて厳しいものとなってきております。このような環境の下で中小企業は、従来にも増して、人的経営資源の蓄積と積極的な活用、さらには創造性、機動性の発揮等、時代の要請に適合した対応を図る必要があるものと思われまます。

貴組合におかれましては、今日迄の十五年の永きに亘る輝かしい成果を踏まえ、協同組合の真価を遺憾なく発揮され、新しい時代を乗り切っていかれまますよう、心からご期待申し上げる次第であります。

私ども商工中金は、本年十二月には創立五十周年を迎えますが、昨年の法律改正により付与されました機能を十二分に発揮し、新生商工中金として金融サービスの充実を図り、中小企業の皆様方の「共同施設」として皆様方の多様化するニーズにお応えできるよう、また皆様方にいつも親しまれ、信頼される商工中金であるよう今後ともより一層努力してまいりまます所存でございます。

なにとぞ今後とも変らぬご指導とご鞭撻を賜わりますよう心からお願い申し上げます。

おわりになりましたが、貴組合が記念すべき十五周年を契機として、今後さらに一段と発展されますとともに、組合員の皆様方のますますのご繁栄をご祈念申し上げまして、お祝いのごことばとさせていただきます。

組 の ゆ
合 あ み

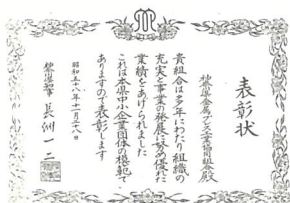
- 所在地 神奈川県伊勢原市鈴川5番地
- 設立年月日 昭和46年6月18日
- 組合員数 20名
- 出資金 20百万円
- 組合員業種 プレス板金加工、精密金型設計製作、プラスチック成型加工、挽物加工、各種自動化装置、産業機械装置、硬貨計算機、スーパー向用具等の製作
- 団地設備

土地総面積	76,800㎡
建物総面積	23棟延38,861㎡
- 設立の経緯 神奈川県金属プレス工業会の会員企業を母体として、川崎市、横浜市等に散在していた金属プレス加工業者および関連業者が、住工混在地域における公害問題の解消と経営の近代化合理化をはかるべく集団化事業の実施を計画、昭和46年6月組合設立、諸官庁、金融機関の指導を受け48年から伊勢原工業団地に団地建設に着手、51年3月全社の進出が完了した。
- 団地内従業員数 1,150名
- 組合役員

理事長	小林豊吉
副理事長	山口六郎
同上	中辻三次
同上	佐藤武二郎
理事	折井勝
同上	野中敏幸
同上	上原孝生
同上	島軒鐸朗
監事	白川桂司
同上	竹内煌
- 共同事業 金融、給食、寮、シャーリング加工、購買、高速道路料金別納制度、その他

年度	組 合 の 動 き	国 内・国際間の動き
43	4月 神奈川県金属プレス工業会結成	12月 3億円事件
44	6月 第三次近促研修会にプレス工業会の小林会長（現組合理事長）出席 9月 近促地方協議会にて神奈川県とプレス工業会が集団化を協議 10月 造成中の伊勢原工業団地内に高度化団地を計画	5月 東名高速道路全通
45	4月 集団化計画参加募集 4月 神奈川県下のプレス業者に高度化参加の呼びかけを行う 6月 秋山事務局長就任	3月 万博開催 8月 いざなぎ景気終る
46	11月 伊勢工業団地分譲申込 2月 22社による設立総会 5月 組合設立認可 5月 集団化実施計画書提出 6月 組合設立 8月 中小企業事業団による計画診断	6月 沖縄返還協定調印 8月 為替変動相場制採用 8月 米国ドル防衛策を発表(ドルショック) 10月 輸出関連中小企業緊急融資制度実施 10月 中国国連加盟
47	3月 土地分譲契約締結 4月 3工場団地視察 6月 個別診断実施 金融事業開始 7月 組合診断実施 伊勢原工業団地(協)加入	1月 グアム島で元軍人発見 5月 沖縄本土復帰 7月 田中内閣成立 9月 日中国交正常化成る
48	1月 第1期建設工事着工 3月 同上 完成 5月 共同住宅賃借契約締結 6月 共同給食開始 10月 起工式 第2期建設工事着工	1月 ベトナム戦争終結 2月 円の変動相場制移行 3月 山陽新幹線岡山まで開通 4月 貿易自由化100%決定 8月 金大中事件 10月 第1次石油危機発生 11月 狂乱物価、異常インフレ起る
49	5月 第2期建設工事完成 6月 第3期建設工事着工 14社操業開始	8月 フォード大統領就任 12月 三木内閣成立 12月 雇用保険法成立 この年戦後初のマイナス成長
50	1月 第3期建設工事完成 5社操業開始 7月 共同シャーリング加工開始 8月 第4期建設工事着工	7月 沖縄海洋博開幕 8月 興人倒産 12月 倒産件数戦後最悪

年度	組 合 の 動 き	国 内・国際間の動き
51	3月 第4期建設工事完成 1社操業開始し全組合員の進出完了 4月 購買品の取扱開始 産業廃棄物の処理始める 7月 運営診断	2月 ロッキード事件広まる 7月 田中首相逮捕 11月 カーター大統領就任 12月 福田内閣成立 倒産件数依然高水準
52	4月 神奈川県民共済、同火災共済代理業務開始 全国工場団地連合会加入 5月 組合員大新産業(株)神奈川県優良工場表彰	5月 領海12カイリ法、漁業水域200カイリ暫定措置法成立 9月 円高融資制度発足 王貞治756号ホームー
53	11月 補完事業診断 組合員(株)オーイズミ中小企業庁長官賞受賞 組合員成幸工業(株)神奈川県優良工場表彰	5月 成田空港運営開始 8月 日中友好平和条約調印 10月 円高180円を割り反転
54	1月 隣接用地購入 3月 型研精工(株)組合加入 5月 補完事業建設工事着工 9月 組合員(株)オーイズミ内閣総理大臣賞受賞 12月 補完事業建設工事完成	1月 米中国交樹立 6月 東京サミット開催 この年公定歩合が相次いで引上げられ、当初3.5%から翌年3月には9%にまで上昇
55	2月 (有)信和製作所組合脱退 3月 (株)竹内型材研究所組合加入 10月 組合員桐栄工業(株)中小企業庁長官賞受賞	6月 衆参両院同時選挙 7月 鈴木内閣成立 9月 イランイラク戦争起る 12月 年間倒産件数18,000件と新記録
56	2月 京浜地区協同組合連合会に加入 10月 中小企業団の啓蒙用映画製作に当組合が対象となり、フジテレビにより映画撮影	1月 レーガン大統領就任 3月 神戸ポートピア開幕 5月 乗用車の対米輸出自主規制合意
57	5月 小林理事長黄授褒賞受賞 9月 鋼板技研(株)組合脱退 10月 寿工業所組合脱退 組合員(株)オーイズミ内閣総理大臣賞受賞	4月 フォークランド諸島事件 6月 東北新幹線開通 9月 政府財政非常事態宣言 11月 中曽根内閣成立 上越新幹線開通
58	3月 秋山事務局長退任 4月 中村事務局長就任 5月 山王鍍金(株)組合加入 同社荒巻社長黄授褒賞受賞 10月 組合員(株)オーイズミ神奈川県優良工場表彰 11月 神奈川県優良組合表彰	4月 中小企業事業承継税制創設 5月 日本海中部地震起る



年度	組 合 の 動 き	国 内・国際間の動き
59	4月 ゴルフ部会発足 10月 組合員(株)オーイズミ 中小企業庁長官賞受賞 高速道路通行料金別納制度取扱開始 11月 組合員(株)オリイ 神奈川県工業技術開発大賞受賞 組合員三光工業(株)神奈川県優良工場表彰	7月 リッカーミシン倒産 11月 新紙幣発行 ニューメディア時代に入る
60	10月 組合員(株)オリイ 中小企業庁長官賞受賞 11月 組合員型研精工(株)神奈川県工業技術開発大賞受賞、同優良工場表彰 12月 食堂調理室増築	3月 筑波科学博開幕 4月 NTT、日本たばこ産業発足 5月 日航ジャンボ機墜落 三光汽船倒産 9月 G5ドル高是正協調介入で合意、円高の契機となる
61	2月 「土地建物の所有名義をめぐる諸問題」の研修会開催 3月 組合設立15周年行事の開催決定 5月 中小企業事業団優良組合表彰 組合員桐栄工業(株)山口社長神奈川県民功労賞受賞	1月 円高が進み、公定歩合の引下げが再三に亘って実施され年初5%が5月には3.5%となる。



建設資材の調達に日々奔走

三光工業株式会社社長 中 辻 三 次

組合が設立された昭和46年から団地建設完成の51年初頭にかけての経済環境は、ご承知の通りニクソンショックで始まり、以後石油危機、狂乱物価、金利の乱高下、不況によるGNPの戦後初のマイナス成長等、工場団地建設時期としてこれ以上不運な環境はなく、これからも減多にないと思っている。

組合設立後間もなく各種の委員会がつくられ、私は建設委員会を担当しその委員長をやらされた。組合運営については以前お得意先の下請組合の理事長をしていたことがあり、ある程度経験があったが、団地建設は始めてで当時40歳になる直前の私にとっては不安がないとはいえなかった。

いよいよ工場建設に入り建設業者数社を決めたものの前述のように運悪く石油パニックに始まる未曾有のモノ不足に遭遇した。記憶に新しいようにチリ紙・洗剤などの日用品に至るまで手に入れることが困難な状況であったから、当然のことながら建設に必要な鋼材をはじめセメント、塩ビ管などは建設業者もお手上げとなり、我々に必要量が確保できないことを訴えてくる有様であった。因みに第1期工事に必要なH形鋼は約2千トンであった。

そこで決心し前事務局長の秋山さんと一緒に某大手商社に乗り込み、資材入手の直談判におよんだ。ところが応待した担当者は協同組合に対する知識理解に乏しく、木で鼻をくくったような態度であった。その後組合の説明資料を持参し、組合が実施しようとしている集団化計画の内容、目的について微に入り細に亘って説明し、なんとか鋼材確保について製鉄会社に頼んでほしい旨哀願した。

会社の仕事も放り出し足繁く通ううち漸く先方も理解をみせはじめ、応待者もだんだん上席の者が応待してくれるようになった。丁度その頃同商社と同じグループに属する大手電機メーカーの都内工場が北関東へ移転するとのことで、我々が必要な鋼材量と同じ2千トンを必要とす

る話をチラつかせながら、非常に見通しはむづかしいことを匂わせつつも製鉄会社にワタリをつけてくれる言質をとりつけることができた。

鋼材確保の見込みが立つとつぎはコンクリートの調達、屋根材、セメント等あらゆる資材の調達に奔走する日が続き、その間自分の会社へは月のうち半分ぐらいしか出社できず、会社幹部から苦情を云われることもしばしばあった。

このような狂乱物価のさなかに資材を調達したため建設費の見積りも猫の目のように変わり悩まされた。資材調達もなんとか可能となり建設工事も順調に進み、大方完成に近づきつつある建物を見届け私は社用でヨーロッパに出張した。帰国してみると驚いたことに工事が中止されていた。事情を聞いてみると業者から工事費の値上げ要請がきていると云う。当初予算から資材調達までの段階ですでに何回か見積修正がおこなわれているのにとんでもないことだと云ったものの、そういう現象はすでに当り前になっており、官庁工事などでもやむを得ず認めている昨今であると聞かされ、ある程度は仕方がないと思った。

当然のことながら工事費が増加し、その資金調達が前提となるため県当局にも日参し、業者の見積りをその都度とり寄せながら計画変更を何回かおこない、前局長などは泊り込みで申請書を作成していたことを今でも思い浮べる。

そんなことで49年5月完成の第1期工事は当初予定額22億円を50%オーバーの11億円も増加する結果となった。

そんな苦勞を味った当時はわれながらとんだ役目を引受けてしまったと悔んだりもしたが、なんとか完成にこぎつけたときは感慨にふけたこともしばしばあった。

今からふり返ると貴重な体験をさせてもらったと思っている。

むづかしかった従業員住宅の必要戸数の予測

桐栄工業株式会社社長 山口 六郎

伊勢原に私共が工場団地をつくるに際して大きな問題の一つに従業員の住宅確保があった。特に参加企業の事業所が東京、川崎地区にある先が多く、かなりの住宅戸数確保が必要であった。

そこであらかじめ組合員から必要量を申出させ役員会でどういう方法をとるか討議した。最初は団地周辺に組合として寮の建設を考えていた。

団地建設の参考にすべく各地の工場団地を視察しているうち寮問題で失敗した事例にぶつかった。それは組合施設として寮建設をおこなったが、利用度が低く組合の赤字が累積し役員の自殺騒ぎまで出した話で、急拠寮建設は取消するのが賢明であると判断を下した。そこで組合員個々の負担で建設する方法と組合が一括して周辺に賃借する方法の二本立を考えた。

しかし戸数も調査では百戸を超える数字であったため、周辺農家に空地利用によるアパート建設をしてもらい組合が一括借りる方法をとるのが早いと考えた。

私の会社は川崎にあったが厚生委員会の委員長をやっていたので、何度か伊勢原に足を運び不動産業者に土地の斡旋を頼み組合員に舎宅用地の仲介をしたりしていた。しかし組合のアパート賃借についてはなかなか埒があかないため伊勢原農協の組合長に相談してみようと思い、直接会って当方の意向を伝えた。組合長もよい方法だと快諾してくれ早速傘下の組合員に呼びかけ、農協資金融資により利用地をもつ農家9名によりアパートか一戸建のいずれも2DKの借家73軒を建設してもらった。

しかし完成した段階になっても工場団地建設の方は諸々の事情で遅れてしまい、かなりの期間空家のまま家賃を支払はざるを得なくなった。その上従業員もいざ工場移転の段階になると今までの住いから通う者、自分で住宅を探す者などがあって実際の入居者は減ってしまった。その結果私が責任者であった福利厚生事業は赤字

を出す破目になり、決算時期に組合員からお小言を頂戴したりした。

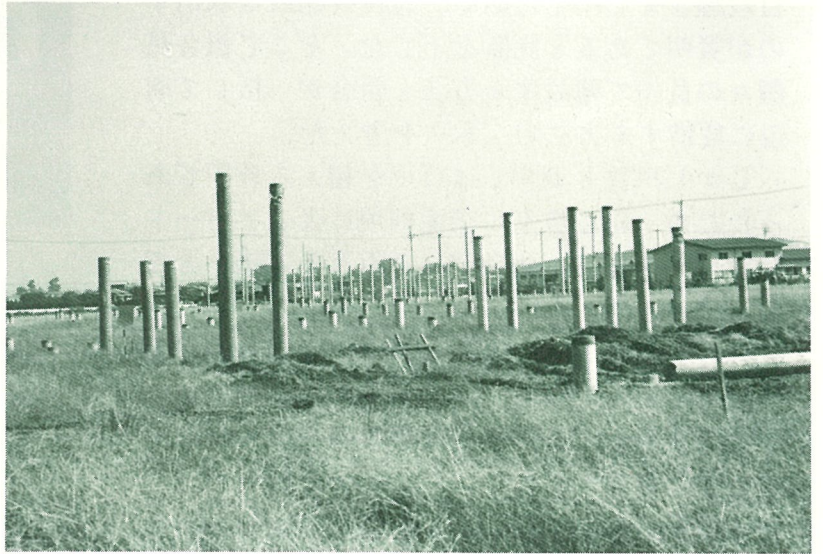
いずれにしても住宅問題は従業員一人一人の問題で、好みも各人各様であり、ましてや組合でまとめるとなると、必要戸数を計画段階で把握することは至難の業と思われ、収支面はある程度犠牲にせざるを得ない一面がある。その意味ではうまくいった方だとひそかに自負している次第である。



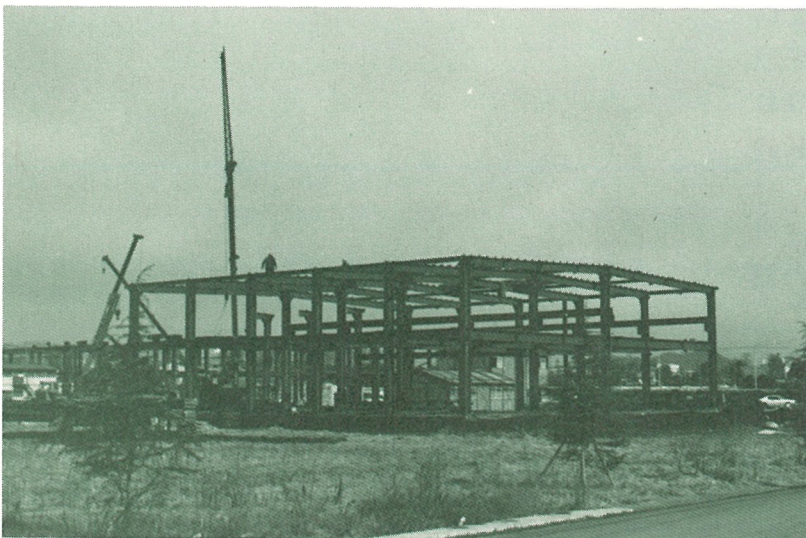
目でみる 団地建設の あゆみ



■中央道路造成工事



■コンクリートパイルの打込み



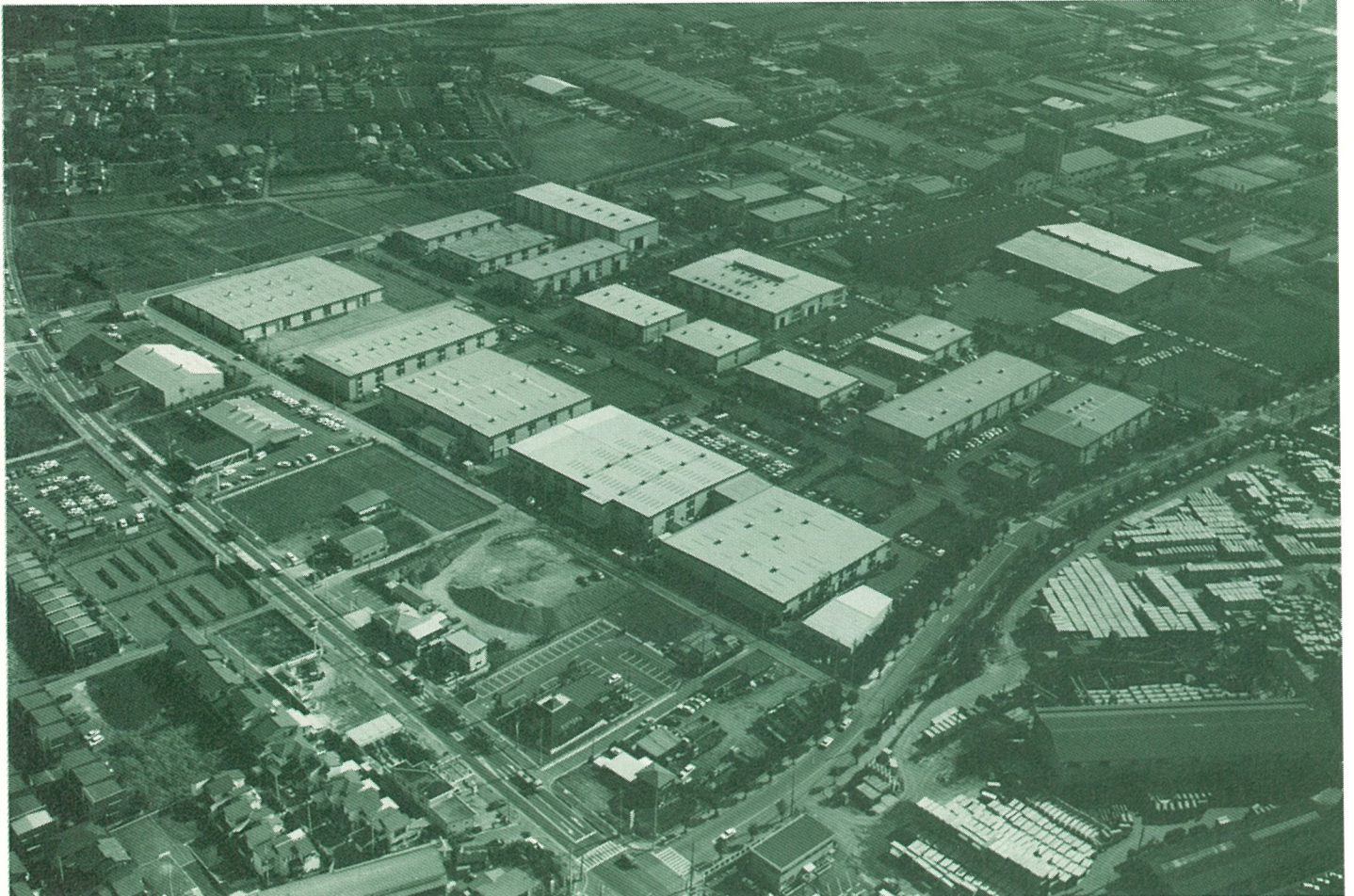
■鉄骨組立



■完成に近く組合員工場



■ユニークな組合会館外観



■昭和54年度実施の補完事業工事完成後の当工場団地全景



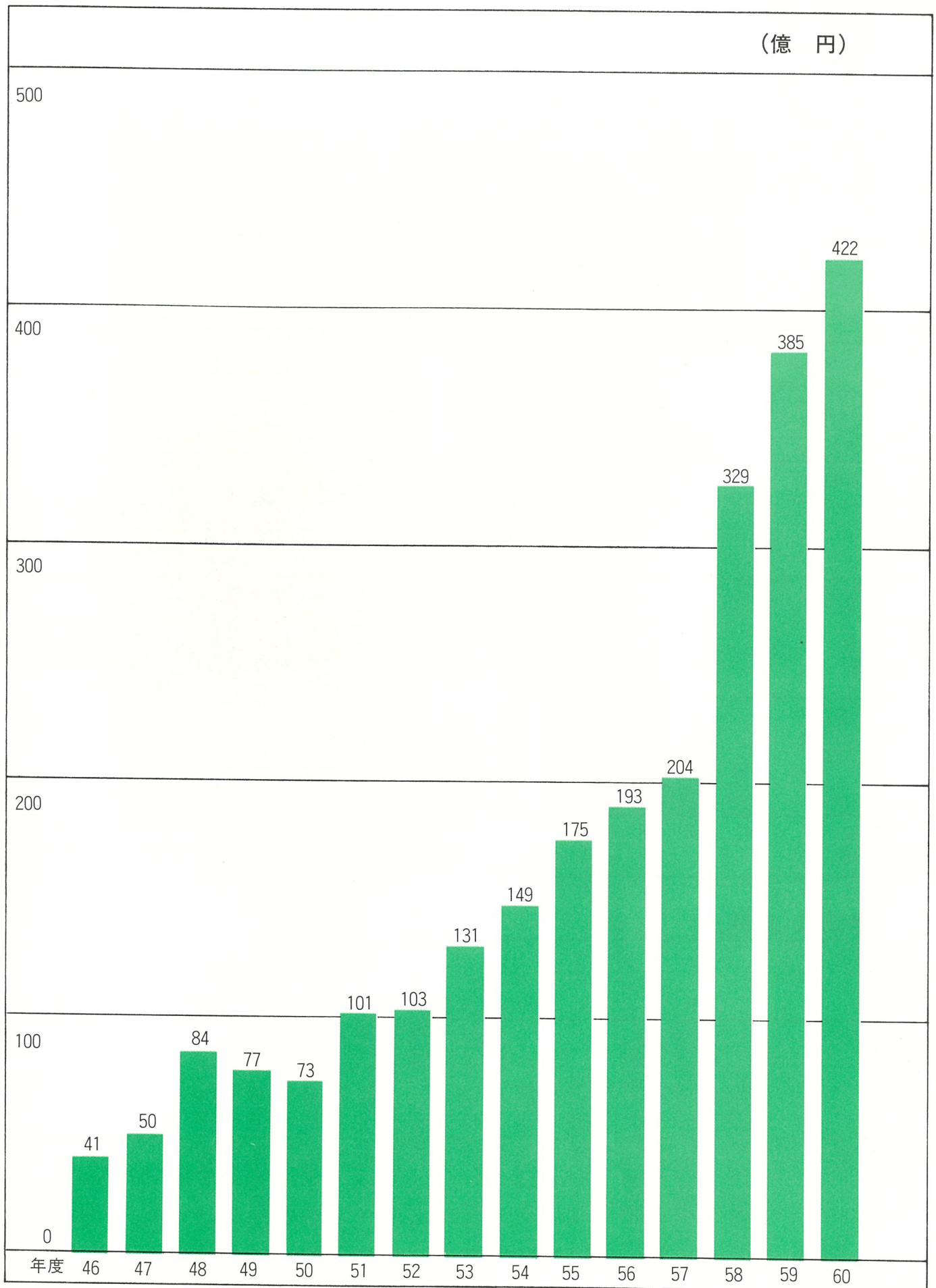
■ 給食設備
月間供給量1万食

■ 従業員住宅
総戸数51戸
すべて2DK



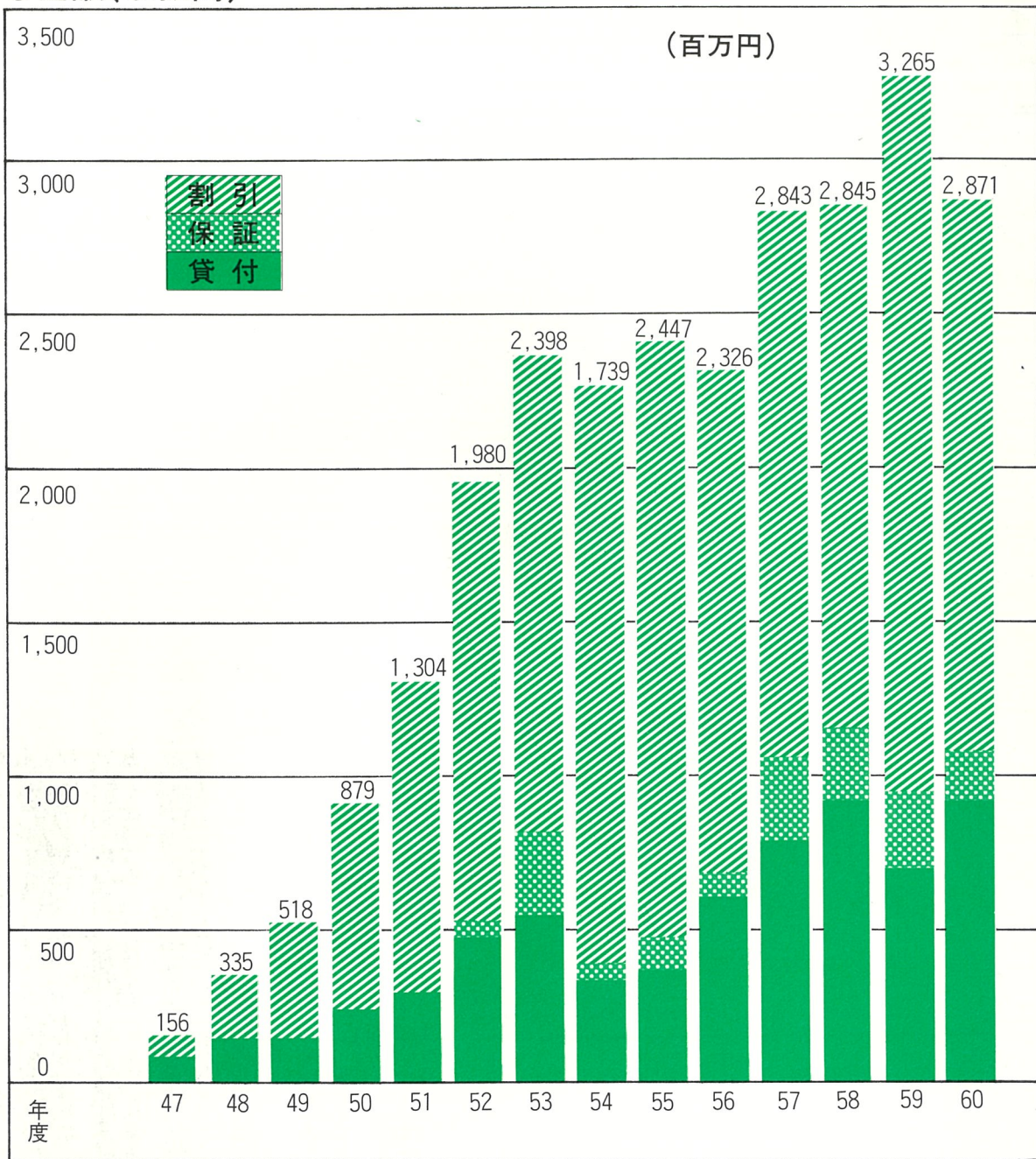
■ シャーリング加工
処理能力
月産200トン

●組合員の売上高推移

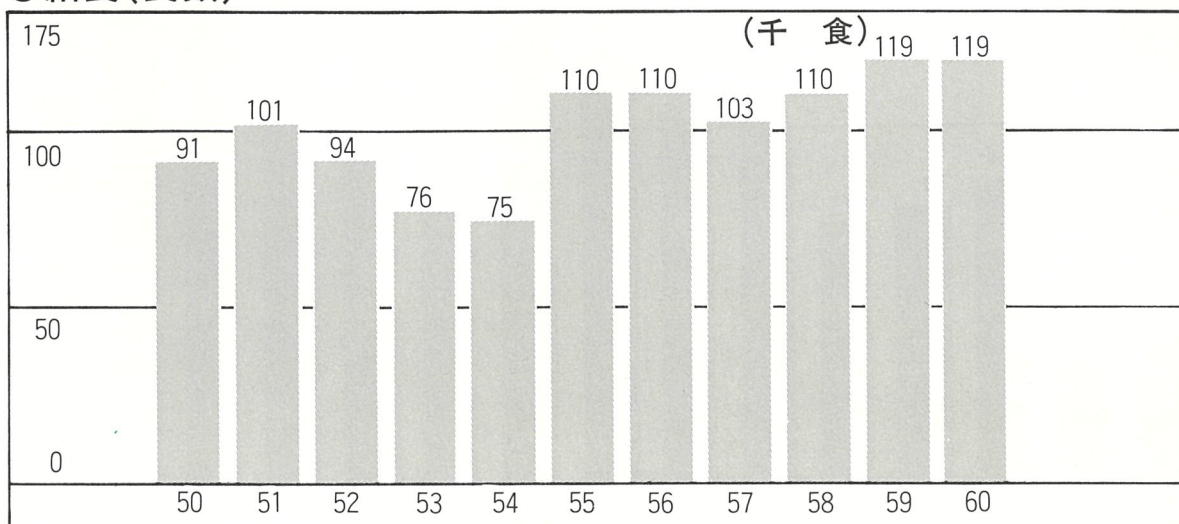


●組合の主要共同事業実績推移

●金融(取扱高)



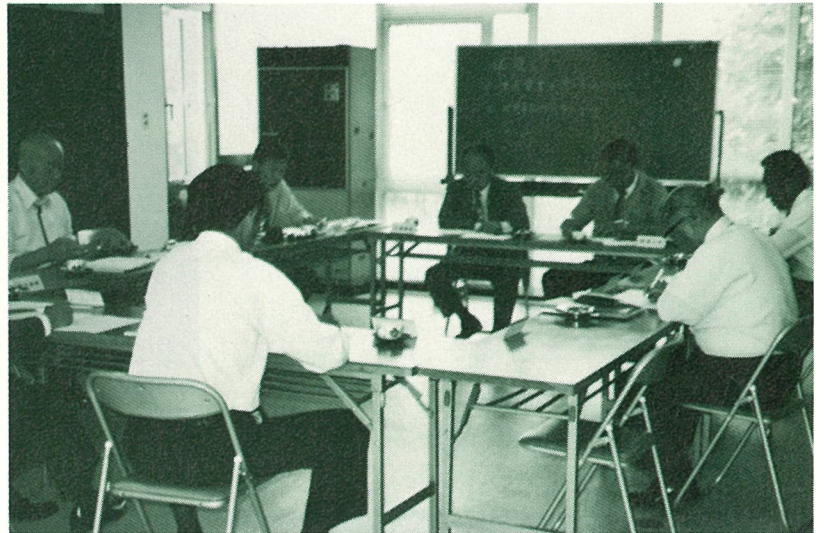
●給食(食数)



CEREMONY EVENT etc.



■ 総会



■ 役員会



■ 研修会



■ 懇親旅行のひとつ



■ 防火訓練



■ 献血協力



■ ゴルフコンペ



■ 金属プレス工業会と共催の
ボウリング大会



■ 工業団地のお祭り



■ 当工場団地を訪れた外国視察団

工場団地とわが社

間接部門も協業化して13年

株式会社進士製作所社長

進 士 正之助

株式会社苧谷製作所専務

苧 谷 廣 三

当工場団地進出にあたって我々2社は、県当局のアドバイスもあって連棟建物として出発した。

機械の配置、工場内通路、事務所などのレイアウトを共同で利用できるようにしたが、ハードの面の修正は可能でしたが、ソフトの面での気くばりには神経をつかった。特に事務所、食堂、更衣室、便所等を共同で使用するため従業員の交流が必要であった。そのため就業規則、給料日（賞与を含む）、休日等就業時間も統一のものとし、忘年会、慰安旅行なども共催してきた。また工場内は両社の間仕切りがなく、従業員の出入りは自由で、設置機械の使用、材料工具類の貸借は日常茶飯事で、このようなすべての設備を共同利用している例は全国の工場団地をみても数少ないと思う。

更に電気ガス水道をはじめ事務所消耗品、テレビ、新聞に至るまで共同の費用として一定割合を負担することを決めているなど、外観上は全く同一会社とみられる事業運営をおこなってきた。

幸い両社の受注内容が異なるため競合は避けることができ、あくまで独立採算でやってきたが、ふり返ってみると年月の経過とともに忘れがちであるが、間接費用の軽減メリットは勿論のこと、目に見えない共同利用の効果は多大のものがあると思う。

お互いに不都合な点、やりにくい問題がないとは云えないが、13年近く同じ屋根の下で続けてこられたのも、進士社長と苧谷専務が戦前からの知己であったことが支えになっていると思う。

最後につけ加えたいことは、なんといっても団地進出による最大のメリットは、業況の浮き沈みにも変りなく企業の信用供与が受けられたこと、最新の技術と情報を絶えず吸収できたこと等々個企業では得られない集団化による集積効果を我々も享受できたことであると思っている。



偶然だった組合との出会い

型研精工株式会社社長

浜 田 一 男

人と人の出会いはある日突然生ずることはままあり、それから良きにつけ悪きにつけ思いもよらない人間関係が生まれることは、永い人生の間で経験することである。しかし企業の取引関係なりは大抵は意図をもって、関係先の紹介などにより発生するものであるが、私の会社と当組合との出会いはまったくの偶然からであった。

私の会社は昭和50年に武蔵野市吉祥寺で始めた若い会社であるが、周辺は住宅地で機械の騒音で夜間の作業が難しく、出来ることならどこか適当な場所があれば工場を移転したいと考えていた。

当時私は伊勢原に住み当工場団地があることは知っていた。しかし日頃は会社の仕事に追われのんびり休日を過ごすことは少なく、地元の様子には疎かった。

ある日たまの休日だったので当工業団地に空いている処はないものかと組合事務所を訪ねた。すると偶然にも当時の事務局長が休日にもかかわらず出勤していたので来意を告げた。局長は現在団地の拡張を計画し隣接地の購入を考えているがすでに入居企業は内定している旨の話があり、やむなく断念し事務所前に置いた車に戻った。そしてまさに発車寸前になって局長が追いかけてきて「どうしても入居したいか」「それなら方法がない訳じゃない」と後日の本人談によればまさに気まぐれに近い言い方で検討するとの返事もらった。

こうして偶然の出会いが実を結び54年に実施された補完事業の際入居企業として割込ませていただくことができ、誠にラッキーであった。

団地進出とオイルショック が契機となった事業転換

株式会社オーイズミ社長 大 泉 政 治

私の会社は昭和41年秦野市で父がプレス板金業を始めたことに端を発する。

当時父から一緒に事業をやらないかと声がかかったが、個人会社で12坪の木造工場、従業員6～7名、加工賃仕事の孫下請といった霧細工場では将来の見通しも明るくないため断り続けた。しかし父の再三の誘いに一大決心し、「自分にすべてをまかせてくれるなら」と意気込み43年春に入社、その年の8月税理士、司法書士の手を借りずに資本金150万円の有限会社をつくり社長になった。

父から事業を引継いでしばらくは高度成長の波に乗り下請企業としては順調な伸びをみせ、当工場団地進出のときには従業員も20名を超えるようになった。しかし進出後すぐにオイルショックの影響をまともに受け、原材料は、高騰する、受注は日に日に減り、一時は秦野の工場売却も考えたほど文字通りドン底の状態に陥入

ってしまった。つくづく大変な時期に団地進出したものだと悔み、大きな借金を抱えてしまったことを嘆いた。

そこで私はこの窮状を打開するため自分に決断を迫った、「このまま下請企業を続けるか、思い切って新しい分野に挑戦しメーカーとして脱皮するか」。私は後者の道を選んだ。一番苦しかったあの頃は一旦進む方向を決断した後は気持の上ではかえって楽になった。

私は進出する分野として将来デノミを予測し、取扱製品として貨幣処理機を選んだ。(現在までデノミは実施されていないが、500円硬貨発行、新札の切替があった。)

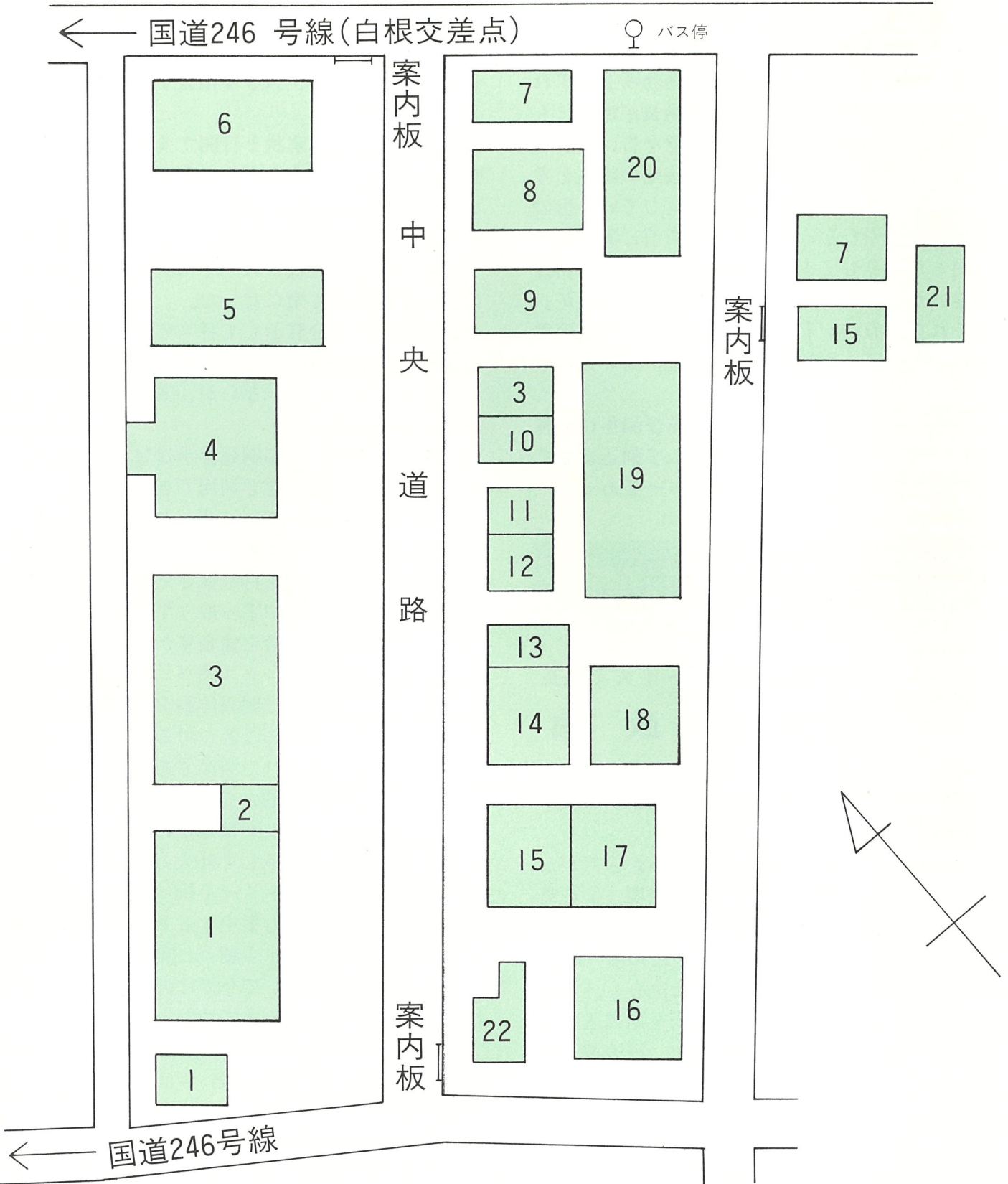
早速市場調査と商品開発を手掛けた。市場調査には民間公的機関など利用できるものはなんでも使い、更に自分でユーザーを訪問しニーズの調査、掘り起こしに走り回った。また製品開発にあたってはまず人材確保とそれに附随した技術ノウハウの獲得が手っ取り早いと考え、メカニクス関係の技術者を他企業からスカウトした。またエレクトロニクス関係は外注企業の協力を仰いだ。こうして開発体制を整え52年によろやく1号機の完成にこぎつけることができた。

しかしかにかにすぐれた製品であっても販路がなければ事業として動いていかない。先発メーカーは自分のところよりはるかに大きく知名度もあり、まともに競争しては太刀打ちできない。そこで私は営業テリトリーを絞った販売とアフターサービスに全力集中する方法を採った。日本列島を南は沖縄から順々に着実に攻めていった。これが功を奏して今では沖縄、九州では60%のシェアを占めるまでになった。

そして私が事業に携ってから18年経た今、資本金98百万円、従業員100名、年商34億円、経常利益7億円(61年3月期)にまで成長した。その間技術面では二度の総理大臣賞や中小企業長官賞を受賞する栄に浴することができた。

思い起してみれば、当工場団地への進出とオイルショックによる苦汁をなめていなければ、今日の当社はなかったであろうとおもわれる。

●神奈川県金属プレス工業団地配置図



- ① 川崎金属工業(株)
- ② 共同シャーリング工場
- ③ 三光工業(株)
- ④ 光栄工業(株)
- ⑤ 江陽機械(株)
- ⑥ 日進工業(株)

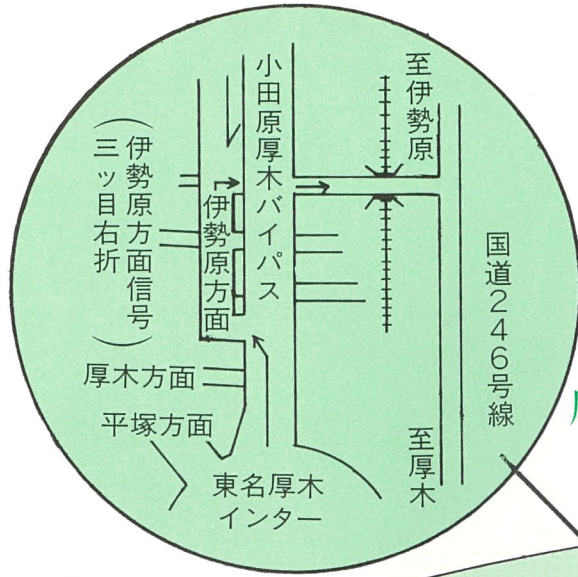
- ⑦ 成幸工業(株)
- ⑧ 山王鍍金(株)
- ⑨ 株オーイズミ
- ⑩ 株竹内型材研究所
- ⑪ 株進士製作所
- ⑫ 株苅谷製作所

- ⑬ 株三丸
- ⑭ 株ムサシノ精機
- ⑮ 株清富士
- ⑯ 株本橋製作所
- ⑰ 株桐栄工業
- ⑱ 株大新産業

- ⑲ 株オリイ
- ⑳ 株横浜機械製作所
- ㉑ 株型研精工
- ㉒ 組合会館

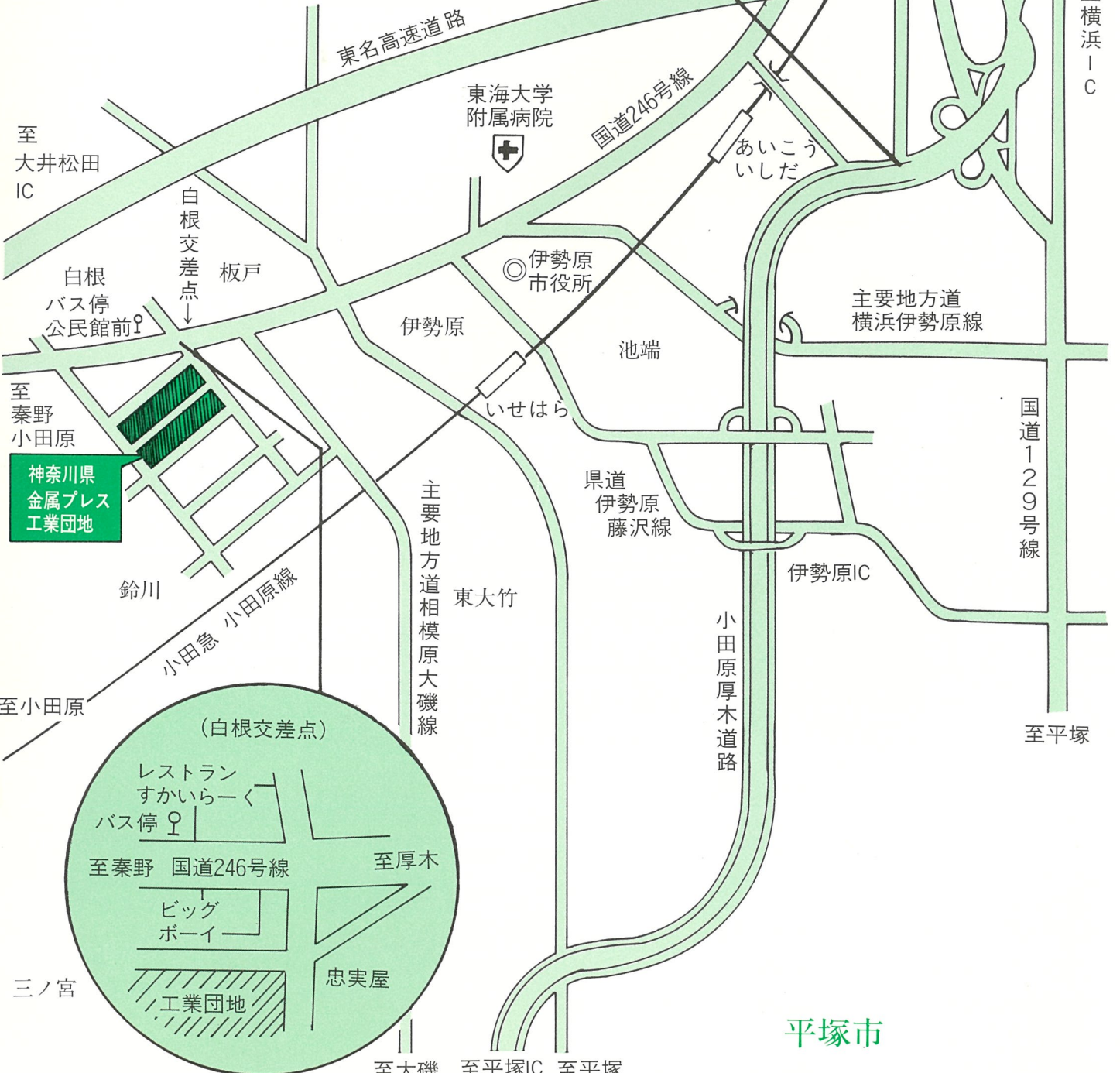


大山



伊勢原市

厚木市



至大井松田 IC

白根バス停 公民館前

至秦野 小田原

神奈川県 金属プレス工業団地

鈴川

小田急 小田原線

至小田原

(白根交差点)

レストラン すかいらーく
バス停

至秦野 国道246号線

ビッグボーイ

工業団地

至厚木

忠実屋

三ノ宮

至大磯 至平塚IC 至平塚

平塚市

組 員 紹 介
合 の 介



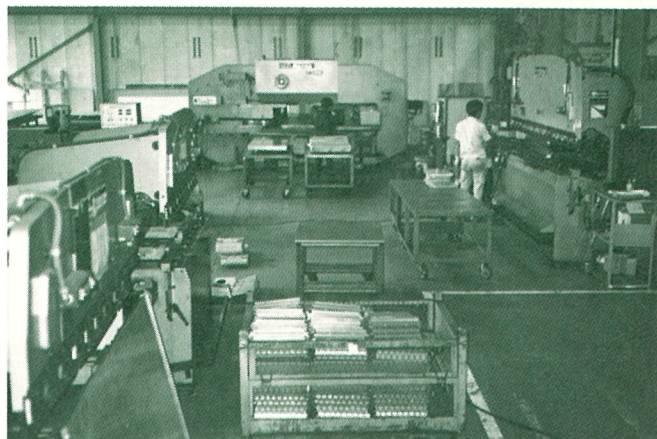
川崎金属工業株式会社

■本 社 伊勢原市鈴川5番地
 ■事業所 TEL0463(94)9173
 同 上

社歴

昭和26年7月プレス加工、金型設計製作を目的に設立30年10月現社長就任トヨタ自動車関連の自動車部品の生産を始める。49年7月伊勢原工業団地の集団化事業に参加、工場建設57年より多品種少量生産の精密鍛金を始める。

代表者氏名 小林 豊 吉
 資 本 金 45,000千円
 従 業 員 数 50名
 団地内面積 土地6,600m²
 建物2,541m²
 主 要 製 品 自動車部品、事務機器用部品、スーパーマーケット用ショーケース部品その他
 加 工 品



特色

大型プレスの深絞り及びプレスのロボット化による量産体制、金型の一貫製作、三軸のレーザーカット機、NCTターレットパンチ他精密鍛金設備による多品種少量生産物の高品質、短納期に対応する生産管理



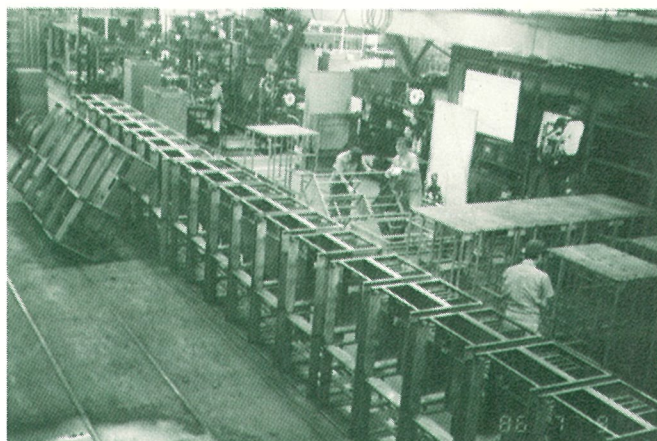
三光工業株式会社

■本 社 伊勢原市鈴川5番地
 ■事業所 TEL0463(93)3151
 同 上

社歴

昭昭31年8月東京都にて個人創業33年3月会社設立46年10月伊勢原工場建設50年3月本社を伊勢原に移転58年8月伊勢原第二工場新設

代表者氏名 中 辻 三 次
 資 本 金 50,000千円
 従 業 員 数 200名
 団地内面積 土地7,903m²
 建物5,867m²
 主 要 製 品 O A 機器関連の金属製品設計、製造、組立その他
 加 工 品



特色

O A 機器関連産業の分野で、高精度の金属製品の設計製作に取り組み顧客のご要望にお応えしている。特に、生産部門においては、NC装置やロボットを駆使した加工技術の開発を強力に推進させ、業界においては最先端を行くFA化を完成させつつある。また、数種類に及ぶ加工法の特許、実用新案、意匠登録等を取得している。



光栄工業株式会社

- 本社 伊勢原市鈴川6番地
TEL 0463(93)0808
- 事業所 東北工場

社歴

昭和40年3月東京都にて個人創業、42年2月会社設立、本社工場を横浜に移転、48年11月東北工場建設、49年6月本社工場を伊勢原市に移転。

- 代表者氏名 中 辻 四 郎
- 資 本 金 50,000千円
- 従 業 員 数 200名
- 団地内面積 土地 6,600㎡
建物 5,080㎡
- 主 要 製 品 電算機、通信機の筐体および部品設計
- 加 工 品 製作



特色

品質向上、短納期をモットーに、社内の情報一元化をはかるべく、コンピューターを活用して受注から出荷までの総合的な生産管理システムを導入し、顧客の要望に答えている。



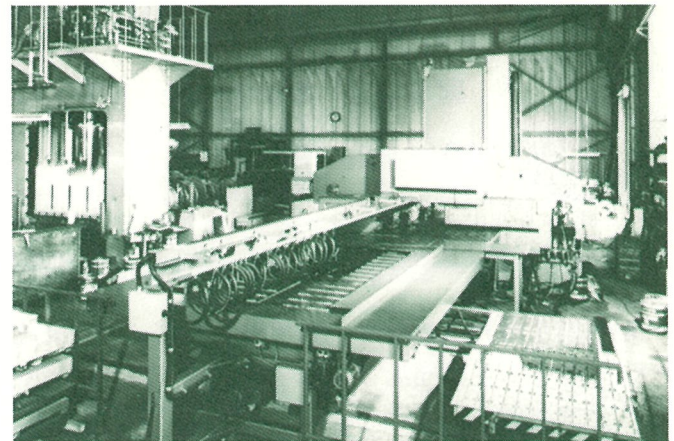
江陽機械株式会社

- 本社 平塚市四之宮936番地
TEL 0463(55)3467
- 事業所 伊勢原工場
TEL 0463(93)0888

社歴

昭和35年機械の設計製作のため個人創業41年金属プレス、板金加工・金型製作等に転換49年工業団地進出プレス板金部門を平塚工場より移転。

- 代表者氏名 上 原 孝 生
- 資 本 金 75,000千円
- 従 業 員 数 66名
- 団地内面積 土地 4,200㎡
建物 2,570㎡
- 主 要 製 品 ステンレス、スチール板金加工品（食
- 加 工 品 料品容器、サッシ、事務用家具、その他）



特色

ステンレスを素材としたビヤ樽、サッシ類、架橋用欄干等あらゆる製品に対応し得る加工技術を有し常に新しい分野の開拓とたゆまざる創造性を社内のモットーとしている。



日進工業株式会社

- 本社 海老名市門沢橋373
TEL 0462(38)2111
- 事業所 伊勢原工場
TEL 0463(94)7562

社歴

昭和35年11月会社設立、46年米国ヒル社と技術提携、51年3月伊勢原工業団地に組立工場建設。

- 代表者氏名 辛 島 仁
- 資本金 50,000千円
- 従業員数 71名
- 団地内面積 土地 7,346㎡
建物 2,922㎡
- 主要製品 スーパーマーケット用什器、運搬車等
- 加工器 製造。



特色

冷凍ケース、商品陳列ケース、運搬車等スーパーマーケットに必要な一切の設備メーカーであるが、あわせてレイアウト、技術指導等のコンサルタント業務も行い、ユーザーのニーズに応じている。



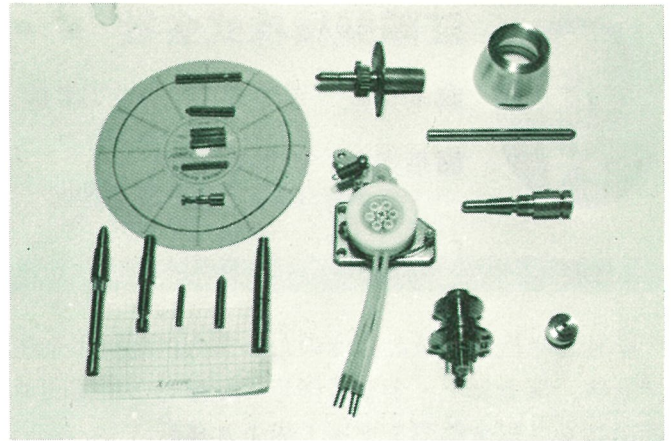
成幸工業株式会社

- 本社 横浜市戸塚区和泉町3984
TEL 045(802)5214
- 事業所 伊勢原工場
TEL 0463(93)0848

社歴

昭和37年12月会社設立、47年横浜にプレス工場建設、50年1月工業団地に工場建設、54年10月伊勢原第二工場建設。

- 代表者氏名 野 中 敏 幸
- 資本金 15,000千円
- 従業員数 82名
- 団地内面積 土地 3,557㎡
建物 3,113㎡
- 主要製品 精密部品加工、組立（弱電、光学、電子防衛産業）



特色

1. ミクロン単位超精密仕上加工、これらの量産可能。
2. プレス金型製作およびプレス加工も含むサブ組立作業。
3. コンベアラインを編成し、レコードプレーヤーの完成品組立および検査。



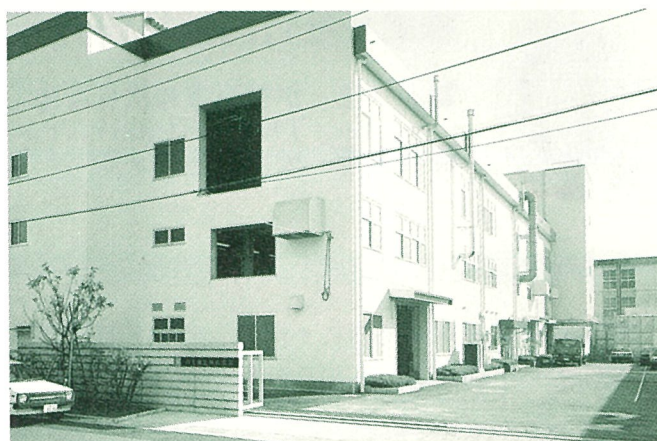
山王鍍金株式会社

- 本 社 横浜市港北区綱島東5-8-8
TEL 045(542)8241
- 事業所 工場3ヶ所
(本社、郡山、伊勢原)

社歴

昭和30年10月創業、44年4月会社設立、49年3月中小企業合理化モデル工場に指定される、57年9月郡山工場建設、60年8月伊勢原工場建設。

- 代表者氏名 荒 卷 芳 太 郎
- 資 本 金 96,000千円
- 従 業 員 数 190名
- 団地内面積 土地 2,640㎡
建物 4,044㎡
- 主 要 製 品 コネクター、ICソケット、スイッチ関係部品等の貴金属メッキ。



特色

納入先の要望にも応えられるよう、先端技術を用い、それぞれ特別な機能をもたせたメッキ装置を有している。

また、公害対策設備をはじめ付帯する設備にも万全を期し、TQC管のもとにより良い製品づくりに努めている。



株式会社オーイズミ

- 本 社 伊勢原市鈴川7番地
TEL 0463(96)1211
- 事業所 営業所全国6ヶ所

社歴

昭和41年4月プレス加工業を個人創業、43年8月会社設立、49年9月工業団地進出、52年4月事務器分野に進出、61年2月現社名に変更。

- 代表者氏名 大 泉 政 治
- 資 本 金 98,000千円
- 従 業 員 数 120名
- 団地内面積 土地 2,640㎡
建物 1,966㎡
- 主 要 製 品 硬貨同時選別機、硬貨計算機、紙幣計
加 工 品 算機、高速メタル貸機、無煙ロースター。



特色

電子カウンターを搭載した小型硬貨計算機を業界に先駆けて発売。以来、オリジナルなテクノロジーの開発追求と新たなユーザーの掘り起しなど、金銭処理機に独自の道を切り開いた。大手企業数社へのOEM供給というように、当社の確実なテクノロジーとノウハウには高い評価を得ている。



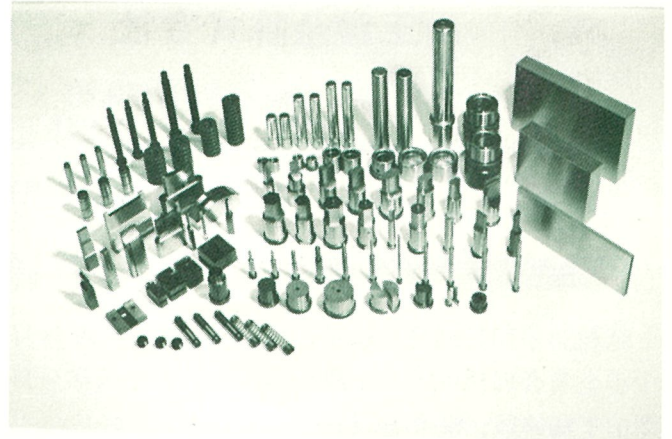
株式会社竹内型材研究所

- 本 社 伊勢原市鈴川6番地
TEL 0463(93)7771
- 事業所 東京、他3ヶ所

社歴

昭和50年7月東京品川にて創業、55年8月伊勢原工業団地に工場設置、60年5月現在地に本社移転。

- 代表者氏名 竹内 煌
- 資本金 20,000千円
- 従業員数 38名
- 団地内面積 土地 990㎡
建物 780㎡
- 主要製品 標準プレス金型部品及びプレス金型ユニット、金型製作機器、プレス関連機器、金型用材料。



特色

プレス金型用標準部品および金型材料を塑性加工業界に供給し、これが対象ユーザーの発展に結びつくよう協力するのが当社の目的である。その達成のための型材研究会は30年(287回)の歴史を有し金型設計からプレス作業までの総合標準化による合理化を推進している。



株式会社進士製作所

- 本 社 伊勢原市鈴川6番地
TEL 0463(93)0872
- 事業所 同上

社歴

昭和27年7月東京大田区にて個人創業、32年11月有限会社に改組、46年6月本社を川崎市に移転、49年1月株式会社に改組、49年6月伊勢原工業団地に移転。

- 代表者氏名 進士 正之助
- 資本金 4,000千円
- 従業員数 15名
- 団地内面積 土地 990㎡
建物 383㎡
- 主要製品 固定、可変抵抗器端子および附属部品
圧着端子。



特色

小物絞りを得意とし、特に順送型の加工にいち早く着目して実用化し高速化することにより、コストダウンをはかり、各種製品の量産と一貫作業に努めている。



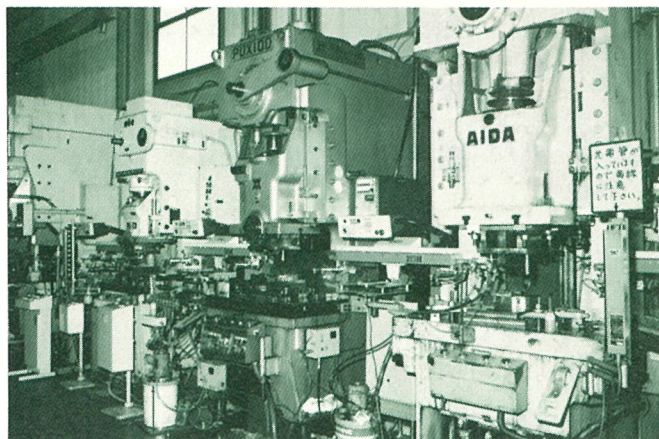
株式会社荻谷製作所

- 本 社 伊勢原市鈴川6番地
TEL 0463(93)0870
- 事業所 同 上

社歴

昭和12年4月東京墨田区で創業、36年1月藤沢市に移転、会社設立、49年6月伊勢原工業団地に移転
56年1月(株)オリイ自動機製作所（現在の(株)オリイ）と資本提携。

- 代表者氏名 折 井 勝
- 資 本 金 13,000千円
- 従 業 員 数 7名
- 団地内面積 土地 990m²
建物 448m²
- 主 要 製 品 プレス加工部品、産業用ロボット部品の製作。



特色

RYロボットラインシステム、その他自動化装置の導入により、プレス加工の自動化を積極的に推進し加工コストの低減と合理化を図っている。



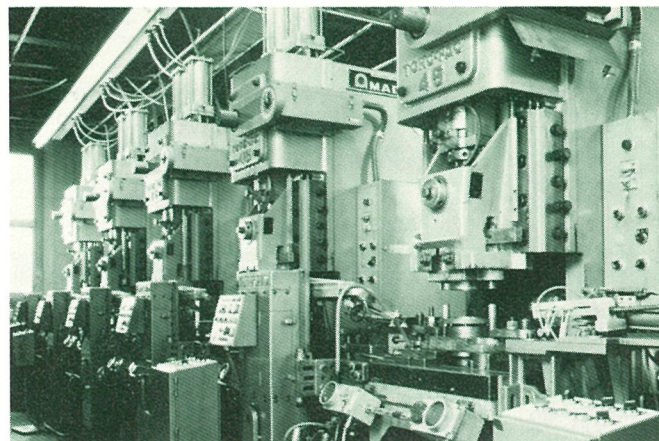
株式会社ムサシノ精機

- 本 社 伊勢原市鈴川5番地
TEL 0463(94)9166
- 事業所 同 上

社歴

昭和37年4月川崎市にて創業、39年4月法人組織とする、49年6月伊勢原工業団地に進出移転、52年4月ワイヤー放電加工機、プレスロボット化を導入、59年4月工場増設。

- 代表者氏名 佐 藤 武 二 郎
- 資 本 金 44,940千円
- 従 業 員 数 45名
- 団地内面積 土地 1,650m²
建物 1,320m²
- 主 要 製 品 各種プレス加工、金型設計製作、ワイヤー、レーザー加工。



特色

プレス加工の自動化、ロボット化により生産部門のセミ無人化をはかると共に、業務管理のコンピューター処理により納期管理を徹底して行っている。また、コストダウンをはかるため各部署の省力化と問題解決に努めている。



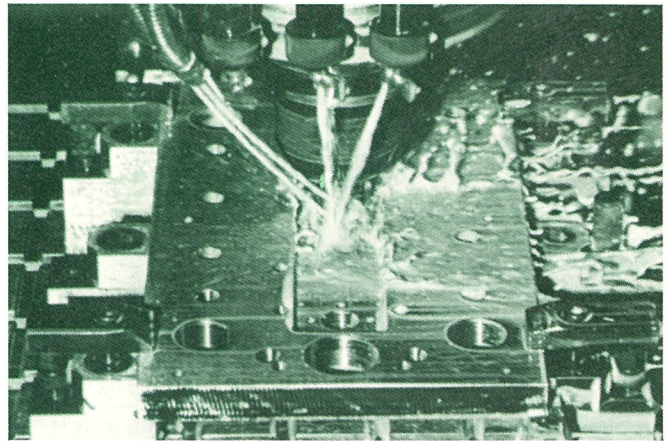
株式会社 三 丸

TEL
 ■本 社 伊勢原市鈴川6番地
 TEL 0463(93)1215
 ■事業所 同 上

社歴

昭和33年創業、59年11月までアルミサッシ関係の金型製作を主に行っていたが、同年12月組合員型研精工(株)の100%出資子会社となった。

代表者氏名 浜 田 一 男
 資 本 金 40,000千円
 従 業 員 数 16名
 団地内面積 土地 990㎡
 建物 885㎡
 主 要 製 品 精密金型部品、金属製品プレス加工、
 加 工 品 コンピュータソフト開発。



特色

CAD/CAMシステムと60本パーツの横型マシニングセンターをオンライン化したプレート加工専門工場。
 また、プレス部門は防振、防音BOX完備による作業を行っている。



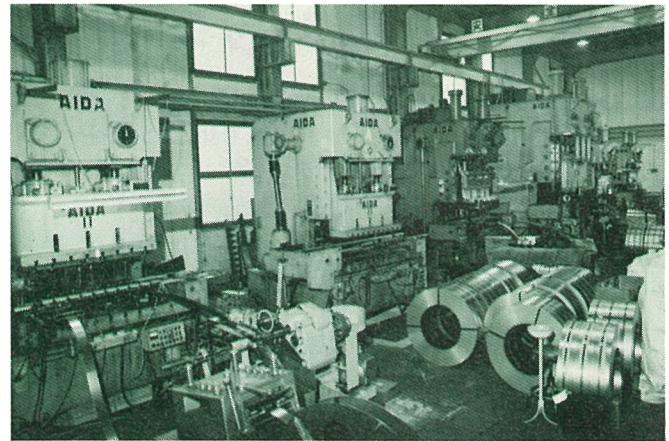
株式会社 清 富 士

■本 社 伊勢原市鈴川5番地
 TEL 0463(93)0863
 ■事業所 伊勢原市鈴川17番地
 TEL 0463(93)0865

社歴

昭和29年12月東京品川にて創業、49年6月伊勢原工業団地の集団化事業に参加のため移転、54年9月団地内に第二工場建設。

代表者氏名 島 軒 鐸 朗
 資 本 金 20,000千円
 従 業 員 数 56名
 団地内面積 土地 3,300㎡
 建物 1,980㎡
 主 要 製 品 モーターケース、コンデンサーケース
 加 工 品 などの精密部品プレス加工、金型設計製作。



特色

1. 金型設計製作からプレス加工、組立までの一貫作業。
1. トランスファープレス加工20年の実績。
1. 精密プレス加工 (FD、VTR、COMP部品など)
1. 新しい加工方法への挑戦。



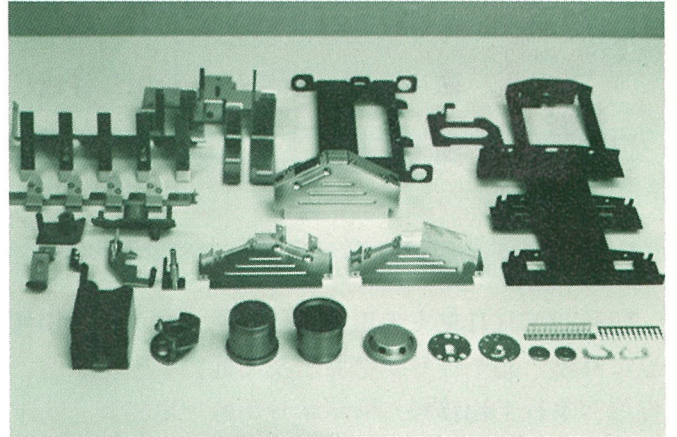
株式会社 本橋製作所

- 本 社 川崎市中原区新丸子東2-924
TEL 044(433)7751
- 事業所 伊勢原市鈴川5番地
TEL 0463(93)3121

社歴

昭和25年4月川崎市中原区にて精密プレス業を創業、32年7月株式会社に改組、40年1月中小企業庁合理化モデル工場の指定、50年1月伊勢原工業団地の集団化事業に参加し工場建設。

- 代表者氏名 本 橋 喜 一 郎
- 資 本 金 12,000千円
- 従 業 員 数 95名
- 団地内面積 土地 2,970㎡
建物 2,227㎡
- 主要製品 プレス金型の設計製作、電子機器部品
- 加工品 の製造組立、電子交換機用各種シェル
ス、工業用計測器部品および筐体、小物プレス鋳金



特色

歯車、コネクタ等の小型精密プレス品からパソコンデスクなどの中物板金まで製品はバライティに富んでいる。

板金部門は多品種のためNC化、プレス部門では金型の規格統一を進めると共に類似品をグルーピングして加工している。



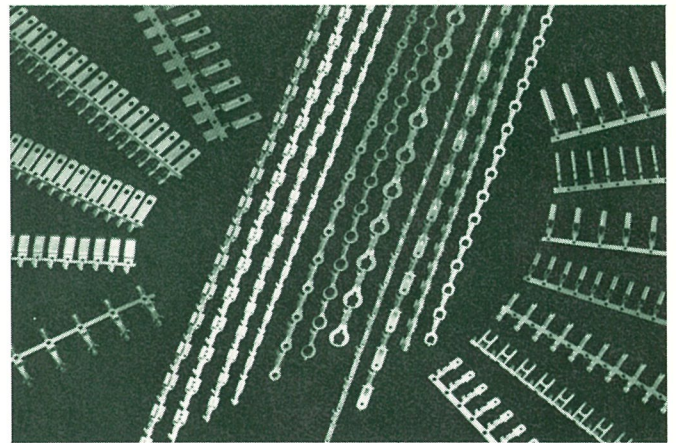
桐栄工業株式会社

- 本 社 川崎市中原区上丸子山王町2-1307
TEL 044(434)2611
- 事業所 伊勢原市鈴川5番地
TEL 0463(93)0851

社歴

昭和31年川崎市にて有限会社として発足、49年伊勢原工業団地の集団化事業に参加し工場移転、58年米国AT & T社と技術提携。

- 代表者氏名 山 口 六 郎
- 資 本 金 50,000千円
- 従 業 員 数 60名
- 団地内面積 土地 3,448㎡
建物 1,741㎡
- 主要製品 電気接続用圧着端子、電話機、コンピ
- 加工品 ューター用モジュラーコネクタ、カセット
デッキ、ビデオ用シャーシーキット。



特色

創立以来精密プレス加工を主業務とし、電気接続用の圧着端子を弱電関係メーカーに幅広く供給している。

自社製品として米国AT & T社と技術提携し、モジュラーコネクタを製造販売。



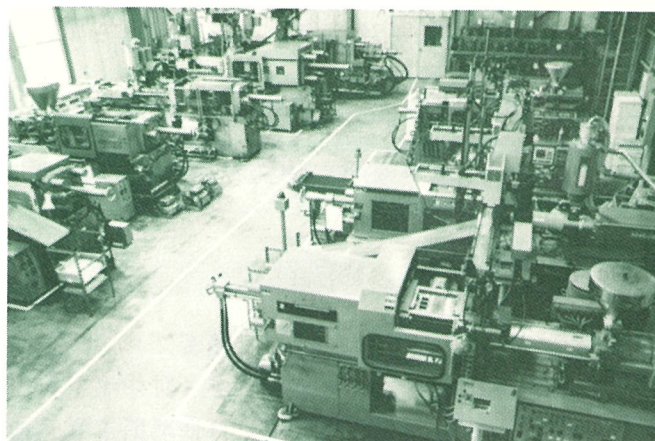
大新産業株式会社

- 本社 伊勢原市鈴川5番地6
TEL 0463(94)9191
- 事業所 工場、伊勢原、茨城、
宮崎

社歴

昭和39年8月東京世田谷にて創業、47年7月伊勢原に移転、49年6月伊勢原工業団地の集団化事業に参加、本社工場地移転、54年4月茨城工場建設、55年1月宮崎工場建設。

- 代表者氏名 岩崎利弘
- 資本金 22,000千円
- 従業員数 230名
- 団地内面積 土地 2,640㎡
建物 655㎡
- 主要製品 精密プラスチック部品（カメラ、OA
加工品 機器部品等）



特色

カメラ、事務機、家電、電子機器などの精密小型部品を金型の設計製作から成形、二次加工および部品組立まで一貫して生産する総合プラスチック成型メーカー。



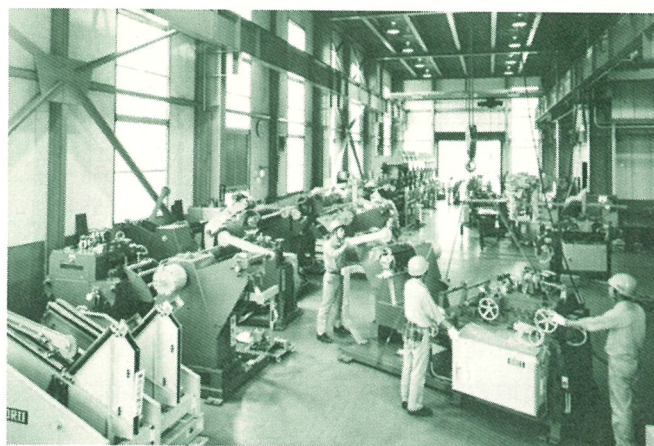
株式会社 オリイ

- 本社 伊勢原市鈴川6番地
TEL 0463(93)0811
- 事業所 工場、伊勢原、川口、
名古屋
営業所、全国20ヶ所

社歴

昭和37年7月東京大田区で会社創立、50年1月伊勢原工業団地に進出、60年6月関連会社3社を吸収合併、現社名に変更。

- 代表者氏名 折井勝
- 資本金 330,000千円
- 従業員数 340名
- 団地内面積 土地 6,600㎡
建物 5,300㎡
- 主要製品 ロボットラインシステム、コイルサイ
加工品 ンシステム、その他自動化装置。



特色

創業以来プレス用自動化装置の製造販売を一貫して行っている。

顧客のニーズにマッチした商品を迅速に、かつ完璧なアフターサービスを提供することを主眼としている。

本年より、蓄積したノウハウを生かしてプレス以外の分野にも進出し、実績をあげている。



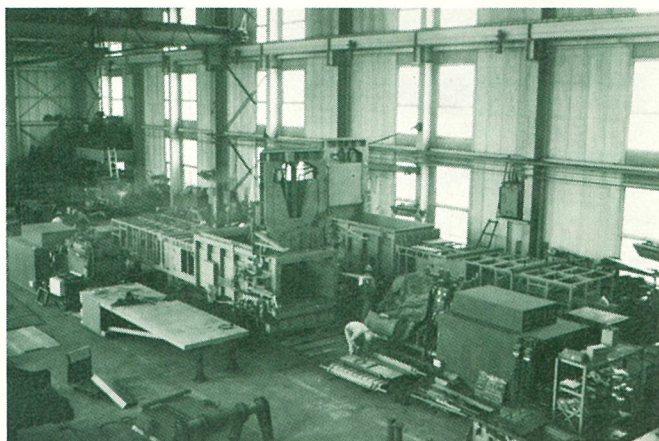
株式会社横浜機械製作所

- 本 社 伊勢原市鈴川7番地
TEL 0463(94)9180
- 事業所 横浜市中区錦町12
TEL 045(621)1234

社歴

昭和9年3月横浜市にて合資会社設立、18年7月株式会社に改組、41年2月三菱重工業の資本参加、49年6月伊勢原工業団地に進出移転。

- 代表者氏名 白川 桂 司
- 資 本 金 12,000千円
- 従 業 員 数 40名
- 団地内面積 土地 4,950m²
建物 1,630m²
- 主 要 製 品 都市ごみ焼却炉等、環境装置用機器、
加 工 品 破碎器、ミル、攪拌機、等の産業機械
その他。



特色

1. 板金熔接、機械加工、組立仕上の総合技術を有する。
2. 工場スパン、クレーン高さは十分、かつ大型レール定盤等大型設備を備付け総重量50トン程度までの大型製品の製作が可能。



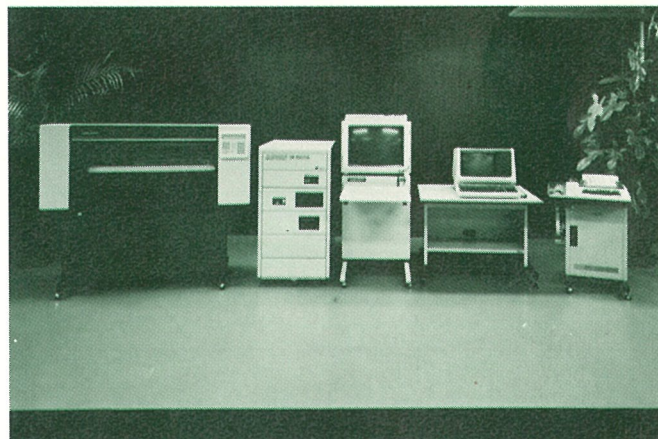
型研精工株式会社

- 本 社 伊勢原市鈴川17番地
TEL 0463(93)4811
- 事業所 工場、伊勢原、大分

社歴

昭和50年12月東京武蔵野市にて創業、54年9月伊勢原工業団地の集団化事業に参加、本社工場移転、56年7月株式会社に改組、58年8月大分工場建設。

- 代表者氏名 浜 田 一 男
- 資 本 金 50,000千円
- 従 業 員 数 83名
- 団地内面積 土地 990m²
建物 660m²
- 主 要 製 品 プレス、プラスチック、ダイカスト加
加 工 品 工用精密金型、金型設計製作用 CAD/
CAMシステム。



特色

1. IC、食缶、電気、電子、その他の業界の需要に応じた精密金型の製作。
2. 徹底した標準化による設計と製作のノウハウをデータベースにした金型設計製作用CAD/CAMシステムは好評。

葉隠勇進株式会社

本 社 川崎市中原区下小田
中1174

T E L 044(777)0808

事業所 首都圏 68ヶ所

事業内容 事業所、病院、学校
等の給食、仕出弁当、
レストラン、割烹、
喫茶



有限会社二浩商会

本 社 東京都品川区西五反
田6-1-3

T E L 03(492)7848

事業所 京浜島、伊勢原各工
場

事業内容 鋼材加工販売



株式会社クリーンサービス

本 社 平塚市田村6696の5

T E L 0463(54)5644

事業所 県内一円

事業内容 産業廃棄物処理



事務局 の 紹介

朝から組合員の〇〇会社から使用建物の構造で不明な点があるので図面で教えてほしいとの電話あり。倉庫から古い図面を探し出して直ちに出向く。

明日の役員会に備えて必要な資料の作成を行う。議題に関係した組合員に内容の問合せ。

今月分の支払内容について請求書未着の先に照会数字の確認をする。

関係団体の△△から例会を予定より繰上げ明日開きたいので出席願いたいとの依頼。

〇〇からこちらの組合を紹介されたとある機械メーカーが製品説明にきたので一通りの内容を聞く。・・・・

これは某月某日の組合日誌から抜粋した。工場団地の組合事務局は定型的な業務より、むしろ臨時的で突発的な仕事と比較的多いのが特徴で、業務スパンが広いと云えます。

今後ともよろしくお願いいたします。



職員紹介

事務局長	中村祥男
事務局員	肥後雄二
事務局員	高橋姜子

記念誌の作成を終えて

低成長時代に入ってスタートした私たちの工場団地も、ふり返ってみれば必ずしも平坦な道程ではなかった。

しかし多くの組合員が今日まで生き残り、お互いに協力し合って企業の地固めをおこなってきた足跡は、なにものにも代えがたい貴重なものと云えます。

5名の記念誌委員がない知恵をしぼって、なんとかそれらしきものを作成することができました。お互いに経験のないもの同志ゆえ最初は完成できることさえ危ぶみました。諸々のアドバイスならびに寄稿等記念誌作成にご協力いただいた皆様に深く感謝する次第です。

15周年を機に組合の歩んできた過去をひもとき、組合および組合員相互の今後の飛躍の一助になれば幸いです。

編集委員会

